

## 第57回(令和元年度第3回)富良野市都市計画審議議事録(要点筆記)

日 時 2月14日(金) 午後2時00分～午後3時40分  
場 所 富良野文化会館 大会議室  
出席者 水間委員、渋谷委員、松下委員、及川委員、藤本委員、家次委員、  
浦田委員、山田委員、荏原委員  
事務局 小野建設水道部長、佐藤都市建築課長、竹内都市建築係長、上野都市建築係主査

### 開 会(14:00)

#### (進行:事務局)

ただ今より、令和元年度第3回、都市計画法に基づく法定審議会としては通算で57回目の都市計画審議会を開催します。

本日の審議会は、委員数13名に対し9名の出席を賜りました。これにより、富良野市都市計画審議会条例第6条の規定により、本審議会は成立していることを報告します。

### 市 長 挨 拶

#### ※市長公務により欠席

#### (代理:小野部長)

今回の審議会については審議事項として、前回の審議会で諮問いたしました特定用途制限地域の変更、そして都市計画マスタープランの策定の2件につきまして、この後ご審議いただく事になります。

よろしく願いいたします。

### 会 長 挨 拶

#### (藤本会長)

本日は足元の悪い中、お集まりいただきありがとうございます。本日の議題は都市計画マスタープランの将来目標の設定までとなっています。

春を感じさせるこの頃となっていますが、先週－30度を下回る日となりました。

私が所属するふらの演劇工房は、ウポポイのアンバサダーとして任命を受け、各種事業に携わります。

先日も、宇梶剛士さん等による喜劇の上演がありましたが、新型コロナウイルスの影響から入場者数が心配されましたが、超満員という結果となっています。

災害や病気の流行などのさけられない事態になると、絶望的な気持ちや心理的に不安定になるところもあり、そういった際には、冷静に対処をといったことになるのですが、ではどのように対処すればよいのかといったことにもなるのですが、支え合い、連携といった日常生活を確実にこなしていくことが、一つの支えになると思います。

この件の終息がどのようになっていくのかわかりませんが、まずはご自愛いただきたいと思えます。

### 審 議 事 項

#### ◎議案第1号

#### 都市計画(特定用途制限地域)の変更について

#### (事務局)

前回の審議会では諮問をし、この間都市計画法に基づく手続きとして住民意見を募集する縦覧を実施しました。1月8日に公告、その後22日までの14日間行いましたが、意見はありませんでした。

本日の審議で答申となった場合、この後北海道との協議を行い、北海道の意見を踏まえ、告示により都市計画の変更となります。

なお、本件は北海道決定である都市計画区域の

変更、並びに都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の見直しと同日での告示となります。

(会 長)

ただ今の説明について、ご質問、ご意見をうかがいます。

(委 員)

特になし

(会 長)

本件については市の案のとおりとすることで答申します。

◎議案第2号

## 富良野市都市計画マスタープランの策定について

(事務局)

(資料1に基づき説明)

現状と課題から、めざす将来像に、防災(災害被害を最小限に食い止める)、交通体系(車がなくても暮らしやすいまち)を追加しています。

本日の進行によっては、3月に再度審議会の開催を想定しています。

(会 長)

ただ今の説明について、ご質問、ご意見をうかがいます。

(浦田委員)

P45のまちづくりの理念に「子供達へ引き継ぎます」とあるが「子供達が引継ぎます」と、主体をどこに置かで意味合いが変わってきます。「が」の方がふさわしいのでは。

P37も同様。

P39「歩行者空間ネットワーク」という言葉について詳しく教えてください。

(委託事業者)

歩行者空間ネットワークについては、歩行者の視点から見た交通環境という意味で、主要な路線網を形成していくうえで、重点的な歩行空間の整備に結びつくという事で、歩行者空間ネットワークという言葉を用いています。

(事務局)

道路整備の際にバリアフリー等の関係でよく使われる言葉です。

(浦田委員)

P11富良野市の気象について、冬期は-30度以下、夏期は30度以上になることがしばしば記録されるとあるが、近年はしばしばではないと思われます。

P12人口の推移について、昭和40年から45年にかけて大幅に減少しその後も減少しているとあり、その要因として国鉄の合理化や石綿鉱山の閉山とあるが、この5年間の激減とつながりはあるのでしょうか。

(事務局)

ここでは昭和40年から近年までの人口減少とその主な要因と思われる事を掲載しています。この5年間で減少した要因として記載しているのではないとご理解ください。

(及川委員)

P19都市計画の沿革について、告示日が現行と違っています。

P25とP39について、都市計画道路の整備率が違います。

(事務局)

誤りですので訂正します。

(荏原委員)

P34アンケート結果について、都市防災については、重要度が高いものと見受けられます。停電時の対策であったり空知川の水害対策であったりとマスタープランにおいては重要視していただきたいと思えます。

(家次委員)

P15工業について、製造業の出荷額が平成3年から27年にかけて50%の減少となっているとありますが、これだけで見ると非常に大きな差となっていますが、他の産業と比較してどうなのか、産業全体の中でどうなのか、市の経済状況としてはどうなのかといったことが見えづらいと思います。

(事務局)

再度精査します。

(松下委員)

教育や少子化といったことについて、学童などの

施設の再編成などについては、このマスタープランに盛り込まれているものなのでしょうか。

**(委託事業者)**

教育施設、福祉施設あるいは商業施設などについては、都市計画においては大事な部分ではありますが、それを都市計画マスタープラン(以下「都市マス」と表記)にどう盛り込んでいくかは、他市の状況をみても中々難しい状況にあります。担当部局における具体的な規模や場所等を示す個別の計画があれば、それにあわせるかたちで都市マスに反映させることは可能かとは思われます。

国においても、こうした施設を含む都市機能の適正配置について、都市マスをさらに進めた立地適正化計画を推進しています。

立地適正化計画を策定するという時になれば、施設の適正配置などについて、より深い議論がすすめられるものと思われま

**(渋谷委員)**

富良野市は立地適正化計画を策定するのでしょうか。

**(事務局)**

策定の予定はありますが、詳細な情報を現時点ではまだお答えできる状況にありません。

**(渋谷委員)**

今後の都市マスについては、立地適正化計画についても関連が伴うので、立地適正化計画の掲載内容について触れるのが望ましいという記述を見たことがあります。策定の予定があるのであれば整合性をとるため、並行して行うことが適当ではありませんか。

12月の審議会で配付された資料(現行計画の個別評価)については、本会議での検討はしないのでしょうか。

以上の点を踏まえ、3月に再度審議会を開催し、検討してはと提起します。さらに、関係する庁内の各セクションとの議論(協議)があると思いますが、それらの議論経過についても審議会での検討材料として必要だと思います。

次に、「まちごと公園に向けて」というキャッチフ

ーズについて、現行からの継承としていますが、この10年間でどう進んできたのか、そして審議会での意見も踏まえなければ、このキャッチフレーズでよいのかということが判断できません。改定時期ですので、キャッチフレーズや理念はもっと吟味した方が良いと思います。

最後に、P46 まちづくりの将来像について、事務局案を提示して、これでもよろしいでしょうかではなく、現行の将来像を基に次の都市マスにはどう掲載していくかの議論を審議会で行うべきではないのでしょうか。

(4)健康で文化的なまちづくりとありますが、「健康で文化的」という表現は憲法にうたわれている生存権と同じであり、ここに用いるのは重々しい印象を受けます。

**(水間委員)**

都市マスについては、中間見直しにあたり、国の情勢の変化など市の状況も10年前と大きく違っている点があると思われま

例として、P39 交通体系整備の課題で、今後は残る計画路線の整備を進めるとありますが、これは拡大の考え方にあたるのではないかと思います。その後に見直し、再配置を適切に行う必要がありますとあるので、どちらに重きを置くのかを、今回の改定において整理する時期ではないかと感じています。

全体的にこうした検討をする機会を作ってもいいのではと思います。

都市マスでどこまで掲載するかという線引きは難しいとは思いますが、P49 のゾーニング計画、動線計画が立地適正化計画に関わってくると思います。都市マスを改定し、それをまちづくりへ反映させるときに、立地適正化計画を基とした実施計画をどう進めていくのかといった点も視野に入れた上で、検討を進めることが必要だと思います。

P46(5)安心して暮らせるまちづくりについて、表現として、国の小委員会の報告などを踏まえた内容となっていると思われま

(会 長)

それぞれ表を用いてあらわしていますが、横軸の年度について、最新の年度が表によって平成27年から30年くらいまでバラバラなのが気になります。27年という年度は古いような印象があります。

DID とうのは略語だと思うのですが、どういう言葉の略なのでしょう。

(事務局)

グラフについては、参照したそれぞれの資料の調査や集計の方法によるところがあります(国勢調査は5年に1度など)。

DID については手元に資料がありませんので、スペルは把握していませんが「人口集中地区」という意味です。

(浦田委員)

「Densely Inhabited District」です。

(会 長)

略語や専門用語などは解説を入れるなどわかりやすくした方が良くと思います。

(事務局)

いただいたご発言について、一旦持ち帰り、次回3月に審議会を開催し、説明させていただきます。

(浦田委員)

P17の観光について、フラノマルシェやコンシェルジュフラノなど、一民間企業が富良野の観光をけん引しているかのように感じられる記載となっています。市の計画に企業名等を載せるのはいかがなものかと思えます。

(事務局)

(まちづくり会社について)単純な民間企業としてではなく、官民連携というところで認識しているところ。位置づけ等について再度確認しながら掲載すべきか検討します。

(及川委員)

外国人が増えているのはわかるのですが、具体的にどの時期に増えているのかに記載されていないので、もう少し具体的に記載し、宿泊などのような施設が増加しているのかなど、記載した方が良くと思います。また、フラノマルシェについては観光地の位

置づけなのでしょう。商業施設だとすれば、地元経済などに関する位置づけも考えられますが、この文章では、観光と商業がごちゃ混ぜになっているように思います。

農業についてですが、P14 に近年の農業を取り巻く情勢として後継者不足と記載していますが、富良野においてはかなり戻ってきている状況にあります。

P16 についても、農家戸数は減少傾向にあり、平成30年は586戸となっていますが、120名を収容できる農業体験者滞在施設や農業担い手育成センターの設置、農業セミナーの開催を通じた農業者の技術向上等々記載していますが、文章をひとまとめにしてしまったために内容が合っていないと思います。滞在施設は労働力不足を解消する目的の施設であることなど、目的ごとに設置されている事をしっかり記載すべきだと思います。

(渋谷委員)

分析などは専門分野に校正していただく事が必要だと思います。数値を用いた部分は、論理的な説明の中に科学的根拠として数値を入れるといった掲載をする必要があると思います。

(事務局)

現況分析の掲載内容については後ほど、担当部局と調整します。

(及川委員)

都市計画を進めるには、いろいろな面でお金がかかるものと思います。人口が減少する中であって、一般的に人口の減は税収の減につながると思いますが、地域の産業がしっかりしていれば、税収は下がらないのではないかと思う面もあります。税収の推移については掲載がありませんが、果たして人口は減っているが税収は減っているのかといった分析も必要かもしれないと考えます。

(会 長)

本日は色々ご意見等いただきましたので、事務局には再度整理していただきたいと存じます。

(渋谷委員)

3月までに進めたいとの事であれば、審議会の前に勉強会を開催するなどご検討ください。

---

## そ の 他

---

(事務局)

次回の審議会については、議会終了後(3月23日の週)で調整いたします。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、後日、3月の開催見合わせを決定

---

## 閉 会(15:40)

---

(事務局)

議案の日程がすべて終了しましたので、以上をもちまして、第57回富良野市都市計画審議会を閉会いたします。